

3月1日（日）主日礼拝レジュメ

「イエスキリストが示された愛」 ヨハネの福音書13章1, 2節

2節で言われている「夕食の間」とは、過越の祭の時に持たれる食事を指す。「夕食の間のこと、悪魔はすでにシモンの子イスカリオテのユダの心に、イエスを裏切ろうという思いを入れていた。」ユダがイエスを裏切ったのは、悪魔がそのような思いを入れたからであって、悪いのは悪魔であってユダは何も悪くないのか？そうではなく、イエス様を裏切ったユダの責任は非常に重い。悪魔は人格を持ち、常に人を神から引き離そうと狙っている。

① マタイの福音書4章1節「それからイエスは、悪魔の試みを受けるために、御霊に導かれて荒野に上って行かれた。」

欄外中の別訳にもありますように、イエス様は悪魔の誘惑を受けられた。

② 種まきのたとえばですが、マルコの福音書4章15節「道端に蒔かれたものとは、こういう人たちのことです。みことばが蒔かれて彼らが聞くと、すぐにサタンが来て、彼らに蒔かれたみことばを取り去ります。」

サタンはすぐに、聞いたみことばを私たちから取り去る働きをすることが分かる。

③ さらに悪魔について、ヨハネの福音書8章44節「あなたがたは、悪魔である父から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと思っています。悪魔は初めから人殺しで、真理に立っていません。彼のうちには真理がないからです。悪魔は、偽りを言うとき、自分の本性から話します。なぜなら彼は偽り者、また偽りの父だからです。」

悪魔は常に偽りを語ることで、私たちを惑わそうとする。

悪魔は私たちが考えているよりもはるかに巧妙であり、何もしなければ簡単にだまされてしまう。そのために私たちが悪魔に対抗するためにどうしても必要なことは、イエス様のようにみことばにこう書いてあると真理のみことばに立つことだが、悪魔も何とかして蒔かれたみことばを取り去ろうとするので、そうされないよう私たちがそれを守らなければならない。そして与えられたみことばに従い続けるということ。

④ ヤコブの手紙4章7節「ですから、神に従い、悪魔に対抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。」

私たちは悪魔ではなく、神に従うということ。

神に従おうとするときには、好ましくないことの方が多い。それでもなお神に従えるか。常に真理のみことばに立ち、神に従い続ける信仰の歩みを続け、すきをねらう悪魔に対抗し続けなければならない。

11、18節のように、イエス様はもちろんユダがそのようにして自分を裏切ることを知っていた。

⑤ ルカの福音書22章21～24節「『しかし見なさい。わたしを裏切る者の手が、わたしとともに食卓の上にあります。人の子は、定められたとおり去って行きます。しかし、人の子を裏切るその人はわざわいです。』そこで弟子たちは、自分たちのうちのだれが、そんなことをしようとしているのかと、互いに議論をし始めた。また、彼らの間で、自分たちのうちでだれが一番偉いのだろうか、という議論も起こった。」

弟子たちは、自分たちのうちのだれが、そんなことをしようとしているのかと議論し、自分たちのうちでだれが一番偉いのだろうかとの議論も起こった。イエス様は自分を裏切ろうとしていたユダの足を洗い、イエス様ご自身が十字架にかかれようとしている時にもなおだれが一番偉いかと議論していた弟子たちの足をイエス様ご自身が洗われた。自分を裏切ろうとしていたユダのために、自己保身とつまらないプライドに捕われ、他者と自分を比べていつまでも議論をすることをやめず、神のみこころを理解せず、完全に神を見失っていた弟子たちの足を自分の身を奴隷の立場に置くことにより愛をもって洗われた。それはイエスの愛から出た行いだった。1節「彼らを最後まで愛された」第三版では「残るところなく示された」とりあえず愛するというのではなく、これだけは控えておこうということのない、これだけはできないということが一切ない残るところのない愛、まさに愛の極みまでイエスは、人の目から見ればとても愛せるとは思えないユダを愛し、イエス様の言われることを理解しようとせず誰が一番偉いのかということに捕らわれ、議論し続けた弟子たちを愛された。

イスカリオテのユダや弟子たちの姿は、私たちの姿でもある。

⑥ ヨハネの福音書15章13節「人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持っていません。」

この最高、最大の愛をキリストは十字架で現わされ、確かにその愛で愛してくださっている。この愛が、私たちを仕える者、しもべとしての生き方に私たちを導く。この愛が、世にあって、そして教会の兄弟姉妹の中にある私たちの腰を低くかがませる。それは愛を知った者こそが、真にキリストのように謙遜な者とされるということ。